



# 幼稚園児と保育園児

(保育にみられる差)

日本女子大学 児玉 省

平野 ひかる

目標と方法 幼稚園と保育園の教育はどんなに違うかを保育の現場において、子どもの行動を教師の反応において見出そうとしたものである。

東京都内の住宅地域から幼稚園保育園各二か所、下町地域からそれぞれ一か所を選び、心身ともに健康な一般普通児で、三十四年度入園児を各施設から一名ずつ計六名、三十三年度入園児を各施設から二名ずつ計十二名。なお幼稚園児と保育園児は、性別、出生順位、家庭環境において類似したもの、かつ年齢のひらきが六か月以内までのものを対象として合計九組計十八名の子どもを選び、各対象児を一回三十分ずつ合計十回にわたって保育中の行動を観察記録し、その行動を対人関係における接触と、遊戯状態の分析を試みた。また園児の家庭に子どもの発達についての保育学会基準によるアンケートを配布してその回答を求めた。

対人関係。保育中にみられた子どもと教師、子どもと友達との関係を、模倣、同意、提案、質問等三十四の角度から分析し、各々の角度の行動について両施設の子どものどちらがそれらの行動をより多く示したか？ を比較した。

結論 (1)幼稚園児は参加、協力など積極的行動が多いのに反し、保育園児は承認、受容などの受身的行動が多い。(2)幼稚園児の方に

活発で指導的行動が多く、同時に(3)模倣的な傾向も強く、(4)先生に對してより多く自己主張する。(5)拒否、制限、無視、攻撃などの行動は保育園児に多く依存心も強い。(6)保育園児は、誰とでも遊ぶが幼稚園児は限られた子どもと遊びやすい。

遊戯における差。遊戯を十三種類に分類してその各々についてその差を見ると、(1)幼稚園児の方が身体活動を主とする遊戯、特にかけっこ、鬼ごっこ等活発な遊戯が多い。(2)ごっこ遊びが非常に少なく、知的遊戯が多いが、保育園児は、ごっこ遊びや積木等が多い。遊戯の種類は幼稚園児の方が多くかつ変化がはげしい。幼稚園児の方が社会的遊戯や組織形態の遊戯が多い。

アンケートによる比較。(1)知的発達の面においては、幼稚園児の方がすべての面においてすぐれている。(2)社会的発達では、幼稚園児は、監督の有無にかかわらず決められたことをよく守るが、保育園児は、監督下においては、決められたことを守り、また、自分を相手に認めてもらいたがる傾向が出ている。(3)運動的発達では、幼稚園児は、手先が器用、保育園児は、生活の自立面、自分のことについては自分でする態度が養われていることが示されている。

(大会発表論文抄録12-14頁)